

第 13 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和3年1月13日（水）

開催時間 午後 4 時 00 分から午後 4 時 25 分まで

開催場所 リバース和戸

出席委員 教育長 齊木 邦彦
教育長職務代理者 三塚 憲二
教育長職務代理者 佐藤 喜美子
委員 松坂 浩志、岡部 和子、小澤 幸子

出席職員 教 育 次 長 小 林 厚
教 育 監 嶋 崎 修
教 育 監 井 上 耕 史
理 事 降 旗 友 宏
働き方改革推進監 小 俣 義 一
次長（総務課長） 小 田 切 三 男
福利給与課長 小 尾 一 仁
義務教育課長 中 込 司
高校教育課長 荻 野 智 夫
高校改革・特別支援教育課 百 瀬 友 輝
総務課総括課長補佐 土 橋 信 也
総務課課長補佐 入 倉 俊 幸
総務課副主幹 河 野 奈 美
総務課副主査 大 瀬 信 介
総務課主事 數 野 浩 己

総 務 課
主 査 日向 かつ美

高 校 教 育 課
総 括 課 長 補 佐 成 島 仁
主 幹 ・ 指 導 主 事 小 林 太 郎
主 幹 ・ 指 導 主 事 石 井 康 敬

傍聴人 0 名

報道 1 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

1 議 案 な し

2 報告事項

- (10) 令和3年度採用山梨県立学校実習助手（農業）（工業）（理科）及び山梨県立特別支援学校寄宿舎指導員選考検査結果について
〔説明〕 高校教育課

【 了 知 】

- (11) 第5回大村智自然科学賞受賞者について
〔説明〕 高校教育課

小澤委員 応募が少ないのはどうしてですか。

荻野課長 実はこの賞につきましては、県内最高賞という科学に関する位置付けでございまして、ちょっと敷居が高い部分があるかということ。あと、やはり受賞しているということのある意味前提としておりますので、今年度実はコロナの関係もあったりして、賞を主催するというか、なかなかうまく開催できなかったりとか、全国の総文祭等もWeb開催とかになったりということ。あとなかなか夏休みが少なくなったりして自由な研究する時間がちょっと取れなくてというふうな部分もあったようで、応募数が少なくなりました。

小澤委員 広報はうまくいっているということですね。

荻野課長 広報はしっかりしております。

小澤委員 分かりました。

【 了 知 】

3 その他報告

- (13) 令和3年度山梨県公立高等学校全日課程における再募集の検査方法について
〔説明〕 高校改革・特別支援教育課

【 了 知 】

4 その他

出席委員から、進路希望調査結果について及び感染拡大について意見があった。委員からの意見と事務局の回答の概要は次のとおり。

佐藤委員 第二次進路希望調査の結果のことで、昨年もある中学校側のミスがあったということで修正があった記憶があるんですけども。調査をまとめて紙ベースの段階から入力する時に、当然学校では十分チェック体制をしていると思うんですけども、そこにもう一度複数の学校長以下、担当の者が立ち会って、最終の紙ベースから入力をする時に、チェック機能をもう一度きちんと行っていただきたいということを、県のほうからもまた改めて指導していただければなというふうに思いました。受験生にとって最終の進路希望を決定する上で、できるだけ動揺がないような形で資料を整えていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

もう1点は、コロナの関係の感染拡大がじわじわ広がっていく中で、今まで以上に学校には緊張感を持って、対策、対応等を取っていただくということになると思うんですけど。国費と県費で行っていただいていたコロナ禍の人材配置のことで、国費が切られるということを目にしたことがあるんですけど、その辺県のほうではそこを補ってもらえるのかどうか。ぜひそこをお願いしたいというふうに思いました発言させてもらいました。

- 百瀬 課長 第二次希望調査の結果につきましては、大変申し訳ございません。誤った報道をいたしましてご迷惑をおかけしました。原因につきましては、中学校側からの報告が違っていたというふうなことでございますが、昨日各中学校には訂正の内容を送ると共に、こういったことが起こらないように先ほど先生がおっしゃられた複数人によるチェック、これを徹底するようにとの内容も含めました文書を通知させていただいたところでございます。私どもも中学校から出てきた内容につきまして、もう一度内容を複数でチェックして、異常値がないかどうかというのも確認する必要があると思いますので、今後とも気を付けてまいりたいと思っております。
- 小田切 課長 2点目のお話は、学力向上支援スタッフとか、スクールサポートスタッフのことでしょうか。
- 佐藤 委員 そうです。
- 小田切 課長 国の概算要求の段階ではございますが、引き続き令和3年度もあるようですので、それに対して県のほうの予算というのはこれからなので、今何とも申し上げにくいんですが、いずれ国のほうの予算が切られるということはない状態です。
- 佐藤 委員 ああ、そうですか。よかったです。
- 小澤 委員 知事さんを交えての会議でも、感染拡大が広がっていく中で登校したい人、あるいは登校したくない人に対しても学びが継続されるように、学び方について選択できるというお話があったと思います。すなわち、リモートでの授業も学校へ行っての授業も受けられるようなという、ハイブリッド体制の確立ということだと思うんですけども、そういったことに対して県の県立学校における準備はどの程度進んでいるのか教えてください。
- 荻野 課長 昨年の当初、学校休業の期間がありましたが、その時にテレビ会議システム等を使いまして学校のほうから各家庭へ双方向の通信ができるような環境を整えました。最初はショートホームルーム等からスタートしておりましたが、授業等も少しずつですが双方向のノウハウができてきてまして、実際各学校でこのたび、例えば学校が休業になったり、個別の学校でそういう部分もありましたが、そういう時にはICTを使って学びを継続するようなこと、各学校で基本的にはできています。ですので、そういうツールというか、手段はある程度整っていると考えています。
- 小澤 委員 誰も取りこぼしはなく、学びは継続できているということによろしいですね。
- 荻野 課長 通信環境の問題もあるので、個別に学校へ来てもらったり、課題等を併用したりしながら学びを継続できるような体制を各学校で取っております。
- 小澤 委員 理想はそういったことができることは大事だと思うんですが、実際現場の先生方のご負担も多いと思います。先ほどの委員のお話にもありましたがおり、学校の先生方のご負担も多いでしょうから、民間企業も含めて、その学びのサポートという点で手厚く、人も手厚くせざるを得ないじゃないかなというふうに個人的には思っています。ありがとうございました。

- 三塚委員 県の感染対策本部の危機感が、どうも教育委員会のほうにそのままストレートに伝わっているような感触が実は見られていないというのもあって。どうしても県としてみても、教育行政の中ですから、踏み込んでなかなか話せない部分のところもあるようですが。この拡大の仕方が非常に今問題になっていますので、家族間感染とか、そういったものが非常に広がっていますから、もう少し教育委員会と感染対策本部と、連絡を密に取りながら、タイムリーにスピーディーにやっていると、後手後手になってしまうと感染が広がってしまうので、そこのところをもうちょっと手を打てるような、有機的な密接な関係を築いていただければありがたいと思います。その辺をご検討いただきたいと思います。よろしくお願いします。
- 小澤委員 恐らくされているんです。それが私たちには見えていないのがあると思うので、どういうふうに関連を取っているのかということがもう少し分かれば。何人今回陽性者が出ました。何人子どもさんが休んでいますというのは教えてもらえるようになりました。
- 三塚委員 要は最前線の教育委員会と、それから感染症対策本部とがうまく密接にかみ合っとうまくやっていたら。もうちょっと密接に有機的な関係を築いていただかないと、ちょっと今後難しくなってくる展開、場面が現れるかなと思っているので、そういう意味でちょっと発言しました。
- 教育長 今後の感染がどうなるか分からないが、ますます対策本部とは連携していかなければならないということは間違いなく言えると思うので、今後も引き続き。
- 小澤委員 実際どれぐらい連絡を取っているのか、ちょっとかいつまんで教えていただけますか。例えば毎日連絡を取り合っているとか、情報交換をどれぐらい密にしているかということをお教えいただけますか。
- 教育長 それは対策本部とですか。
- 小澤委員 はい。
- 教育長 対策本部と、と言うか、福祉保健のほうで逐一上がってくることになっております。学校で、感染が出たあるいは濃厚接触者が出たとき、どこまで濃厚接触かと判断するかなど、全部保健所任せになる。
- 三塚委員 福祉保健部自体も、そこのところは保健所マターになっていますから。保健所がこういうふうになりましたと言え、それ以上言いようがないですから。そこのところはやっぱり仕方がない部分かと思う。
- 教育長 今回も先週何回か文部科学省のほうから各学校宛の通知も来まして、部活動のこととか、あるいは一般的な感染対策のこととかですね。タイムリーで文科省からも当然のことながら文書が来るので、もちろん私もそれを見ながら各学校に、より具体的な指示を出してということで、ただそれはじゃあ対策本部と連携しているかと言われるとそれはまた違う話で、だから必要に応じてやっているつもりではあるんですが、ますます必要になってくると思うので、今後連携していきたいと思っております。
- 三塚委員 だから危機感を両方で共通しているということが一番大事なので、その対策さえしっかり取れていけばいいんじゃないかな。

小澤委員 対策が必要な学校が出たとして、教育委員会のほうからやっぱりいろいろアドバイスとか、過去の知見を踏まえて、こうしたらいいですよというアドバイスなんかを適宜されているということによろしいでしょうか。

教育長 はい。

小澤委員 分かりました。

[教育長閉会宣言]

以 上